

5. 診療活動

三越厚生事業団は公益財団法人の認可を受け公益財団法人三越厚生事業団となり、健診事業はもとより外来診療も一般の方々を対象とした公益事業として活動している。

三越診療所は新宿駅西口から徒歩5分という交通の便のきわめてよい場所に位置し、雨天の場合には地下道を利用することにより濡れずにご来所いただける。

当診療所には外来診療部門と健診部門があり、外来診療部門では通常の外来保険診療とともに、入社健診、健診の2次検査あるいは精密検査も受けられ、多くの方々にご利用いただいている。ワクチン接種については、自費診療でインフルエンザ、肺炎球菌、麻疹、風疹、水痘（带状疱疹）、おたふくかぜ、B型肝炎、破傷風の**各ワクチンの接種を実施**している。受診者は一般企業の勤務者、新宿地区にお住まいの方、都内ならびに都外の遠方から来られる方など様々である。また、今年度は無料で新型コロナウイルスのmRNAワクチン接種を実施した。

診療内容については、一般内科以外に、脂質代謝、糖尿病、消化器、循環器、神経内科の各内科専門医、ならびに乳腺外科の専門医がいる。乳腺外科は原則的に予約制であるが、当日受診も可能である。

検査としては、一般血液、尿検査以外に、単純X線検査、心電図検査、**胸部X線、肺機能検査、眼底検査、ホルターならびに負荷心電図検査、24時間血圧測定検査、血管機能検査、胃透視検査、胃ならびに大腸内視鏡検査、ピロリ菌検査、デジタルマンモグラフィ、心臓・腹部・乳腺・甲状腺超音波検査、骨密度検査、腎盂造影検査**が受けられる。さらに、令和2年1月から健診オプションとして腹部CTを用いた**内臓脂肪測定検査**（保険適応なし）が可能となった。

胃透視機器については平成29年高精度の新機器が導入され、診断能の向上が期待される。大腸内視鏡についても、最新型の機器を平成29年末から使用している。内視鏡検査にはがんの早期発見の手助けとなる**NBI（狭帯域光観察）内視鏡システム**が導入されている。胃内視鏡検査には**新しいマウスピース（エンドリーダー）**が使用され、通常のマウスピースよりはるかに楽に検査が受けられる。**CT検査**（単純ならびに造影CT検査）は平成27年に高性能の新機種が導入され、頭頸部・胸部・腹部の精密検査として施行される。なお、単純CT検査は平日午後に予約なしでご利用いただける。また、**血管機能検査（動脈の硬さの指標であるCAVI測定など）と頸動脈超音波検査による血管の動脈硬化度の測定、ならびに内臓脂肪測定**は、社会的に注目されているメタボリックシンドロームに伴う動脈硬化に起因する心臓ならびに脳血管障害の予測に有用である。画像検査の結果はすべてデジタル化しており、受診者に画像を見ながらわかりやすく説明している。これらの機器を取り扱う医師ならびに検査技師は、受診者への心配りはもとより、安全かつ正確で迅速な検査を心掛けており、機器や試薬についても新しい情報をもとに常に改善を図っている。

外来受診者の病気については、感冒、腹痛、胸痛、頭痛、動悸などの急性の病気から、高血圧、高脂血症、糖尿病、痛風、脂肪肝などの生活習慣病、慢性肝障害と胃腸病、不整脈、動脈硬化に伴う心臓病と脳血管障害などの慢性の病気まで、**専門の知識を持ち、経験豊富な医師（認定医および専門医）が診察**にあたっている。受診者のなかには、当事業団の三越総合健診センターで健康診断を受け、2次検査となった人、あるいは区健診の2次検査の人も多くみられる。当診療所は、区健診の2次検査としての胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査の指定診療機関となっているので、多くの方が1次健診に引き続き当診療所でこれらの精密検査を受けている。

外来は午前9時～午後1時、午後2時～午後5時まで診療し、午後1～2時は昼休みである。個人情報保護法の趣旨に従い、外来では名前の代わりに**番号での呼び出し**を行っている。当診療所は院外処方を採用してい

が、専属の常勤薬剤師が処方された薬剤についての説明をしており、電話による薬の問い合わせについても、常勤医師あるいは薬剤師がいつでも対応できる体制にある。さらに令和2年度から、新型コロナウイルス感染症の流行にともない外出を控えている受診者への電話再診を行っている（自覚的に安定している慢性疾患受診者について定期処方箋の自宅への郵送を実施しているため、来院は不要である）。

禁煙外来は保険診療の一環として行われており、**栄養相談**は、高脂血症、糖尿病、肥満などを対象に主治医の指導のもとに週1回管理栄養士が対談形式で行っている。

当診療所は来所された受診者が納得し、満足のいく医療を受けられるよう、医師、看護師・保健師、検査技師、外来受付事務担当者、ならびに健診センター職員が相互に緊密な連携をとり、最良の医療となるよう心掛けている。その一環として、学会、研究会、講習会への出席、レントゲンカンファレンス、定期的に行われる医療研修会、薬事委員会、全職員が参加する研究活動を通して、最新の医療情報や技術を常に入手している。そのなかで有用なものはインフォームドコンセントを得たうえで受診者のために活用している。今年度は新型コロナウイルス感染症流行のため一部の活動は縮小された。特に、受診者が病気の説明、待ち時間を含め、満足する医療が受けられるよう、当診療所の**全職員が良質の接遇を心掛けている**。三越診療所（外来と健診センター）の詳細についてはホームページを参照いただきたい。

（船津和夫 記）

A. 上部消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡は径がやや細めのオリンパス製電子スコープGIF-PQ260を2本使用し、受診者の負担の軽減に役立っている。さらに、**内視鏡挿入時の咽頭の不快感を軽減するため、咽頭麻酔剤の使用とともに、サイレースを静注し（年齢・体重により投与量を調整）、軽眠状態で行っている**ので、**楽に検査を受けられる**。なお、お年寄りの方や前回麻酔が効きすぎた方あるいは一部の企業検診や区検診では、麻酔なしで検査する場合がある。平成24年度秋から**新しいマウスピース（エンドリーダー）**を使用し、通常のマウスピースよりはるかに楽に胃内視鏡検査が受けられるようになっている。また、5年前に**内視鏡周辺機器が一新**され、これまでより鮮明な画像が見られるようになった。特に、**NBI（狭帯域光観察）内視鏡システム**は食道・胃・大腸内の様子を明確に画像表示し、がんの早期発見の手助けとなっている。

内視鏡の消毒には、内視鏡学会の基準に則した**強酸性電解質による殺菌を毎回行っている**。内視鏡検査で慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍の所見がみられた場合には、内視鏡によるピロリ菌検査が実施されることがある。新型コロナウイルス感染症が流行しているため、1例毎に感染予防を徹底したので、1日当たりの件数は減少した。

令和4年度の施行件数は、男性305例、女性362例、計667例で、令和2年度の428例（男性208例、女性220例）より多かったが、令和3年度の841例よりは少なかった（表1）。経年推移をみると、平成29年度1066例、平成30年度948例、令和元年度1022例とこれまで1000例前後が続いていた。新型

表1 胃内視鏡検査月別人数 (人)

月	男性	女性	総数
4月	22	19	41
5月	35	21	56
6月	35	33	68
7月	27	28	55
8月	24	20	44
9月	25	28	53
10月	31	45	76
11月	29	55	84
12月	17	31	48
1月	25	29	54
2月	20	24	44
3月	15	29	44
計	305	362	667

コロナウイルス感染症の影響を受け半減していた令和2年度の件数が回復しつつある。男女比で

は、女性が男性より多かった。男女比の推移については、平成20年までは男性が女性より多かったのに対し、その後は女性が男性より多い。

症例の内訳は、健診で胃内視鏡検査を受けた人は371例（男性167例、女性204例）で（表2）、令和2年度の92例（男性44例、女性48例）に比べて著明に多かったが、令和3年度の509例（男性208例、女性301例）よりは少なかった。令和2年度の著大な減少は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う健診受診者の減少のためであった。

健診以外の胃内視鏡検査受診者は296例（男性138例、女性158例）で、令和3年度の332例（男性150例、女性182例）、令和2年度の336例（男性167例、女性169例）と比べて減少していた。

その内訳をみると、2次検診として18例（男性12例、女性6例）で令和3年度の21例（男性8例、女性13例）、令和2年度の25例（男性15例、女性10例）より少なかった。他所からの紹介を含めた外来受診者は278例（男性126例、女性152例）で、令和3年度の311例（男性142例、女性169例）、令和2年度の311例（男性152例、女性159例）より少なかった。外来からの胃内視鏡検査数は平成25年から胃内視鏡検査を受けたピロリ菌保菌者の除菌治療が保険適応になったため増加傾向にあったが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の流行のため減少していた。

表2 胃内視鏡検査受診者の内訳 (人)

	男性	女性	計
健診	167	204	371
健診より2次	12	6	18
外来	119	142	261
他所より	7	10	17
	305	362	667

胃内視鏡検査所見（表3）としては、例年どおり食道は食道ヘルニアと逆流性食道炎が多くみられた。胃については、慢性胃炎、良性ポリープ、びらんがよくられ、胃潰瘍は2例（令和3年度3例）であった。十二指腸については、ポリープと潰瘍瘢痕が多く見られ、潰瘍は4例（令和3年度7例）であった。所見なしは66例であった。

ヘリコバクター・ピロリ菌検査は内視鏡施行時、ピロリテックテストが実施され、検査数は11例（男性7例、女性4例）であった（表4）。件数の推移については、平成23年度75例、平成24年度58例に比べ、平成25年度271例、平成26年度217例、平成27年度205例、平成28年度157例とこの4年間は比較的多かった。一方、平成29年度35例、平成30年度30例、令和元年度43例、令和2年度19例、令和3年度23例、令和4年度11例と減少傾向が続いている。この減少傾向は新型コロナウイルス感染症の流行に伴う胃内視鏡検査数の減少に一因があると思われる。平成25年からの増加は後述する

ように胃内視鏡検査受検者でピロリ菌の除菌治療が保険適応となったためである。その後の減少は、内視鏡検査で新たに見つかる胃炎患者の減少も関与していると考えられる。

今年度のピロリ菌検査陽性率は72.7%（男性71.4%、女性75.0%）で、平成30年度80.0%、令和元年度86.0%に比べ減少していたが令和2年度の47.0%、令和3年度56.5%より高かった。令和2年度以降は症例数が少ないため、参考値と考えたい。

表3 胃内視鏡検査所見 (人)

食道	食道がん	0	胃	胃がん	3
	食道乳頭腫	0		表層性胃炎	120
	粘膜下腫瘍	2		慢性胃炎	230
	白斑	5		胃潰瘍	2
	逆流性食道炎	114		腺腫	0
	ヘルニア	259		良性ポリープ	242
	憩室	1		びらん	152
	潰瘍瘢痕	0		潰瘍瘢痕	4
	カンジダ症	8		粘膜下腫瘍	30
	バレット食道	34		憩室	1
十二指腸	ポリープ	3	残胃癌	6	
	びらん	5	その他	0	
	十二指腸がん	0	所見なし	66	
	びらん	9			
	潰瘍	4			
	潰瘍瘢痕	12			
	ポリープ	24			
	憩室	4			
粘膜下腫瘍	9				
その他	13				

表4 ピロリ菌検査人数と陽性者数 (人)

	男性	女性	計
検査数	7	4	11
陽性者	5	3	8
陽性率(%)	71%	75%	73%

平成24年度までは、ピロリ菌除菌治療の保険適応は胃・十二指腸潰瘍、早期胃がんの内視鏡治療後、悪性リンパ腫の一つである胃MALTリンパ腫、血液の難病の特発性血小板減少性紫斑病に限定されていた。ピロリ菌感染は胃がんの原因であり、その予防のために、平成25年度から胃内視鏡検査を受け、胃炎がある場合にピロリ菌検査と除菌治療が保険適応となったことから、胃内視鏡検査とそれに続くピロリ菌検査数は一時増加した。ピロリ菌陽性者のほとんどが当診療所で、抗生剤2種類と

胃薬を1週間内服する**ピロリ菌の除菌療法**（1次除菌療法あるいは2次除菌療法）を受け、ほとんどの人で除菌は成功している。

胃内視鏡検査で発見された胃がん症例の3例を示す（表5）。外来由来の2名はいずれも早期がんであった。健診からの1例は印鑑細胞癌を認めたため腹腔鏡下手術となった。

表5 胃内視鏡で発見された胃がん症例

性別	年齢	診断名	部位	進行度	術式(紹介)	依頼元
男性	77	高分化型管状腺癌疑い(グループ4)	幽門前庭部	早期	内視鏡的粘膜下層剥離術	外来より
男性	80	高分化型管状腺癌	胃体中部大弯	早期	内視鏡的粘膜下層剥離術	外来より
女性	63	腺癌/印鑑細胞がん	胃体上部大弯	進行	腹腔鏡下手術	健診より

B. 下部消化管内視鏡検査

大腸疾患の検査については、注腸検査（肛門からバリウムを大腸に注入し、レントゲンを使って大腸粘膜の変化を観察する）は近年激減し、要精査になった場合大腸内視鏡検査が必要なことから現在は行われていない。大腸内視鏡検査は柔軟性に富み受診者に優しい最新型のPCF-H290Iを2本使用している。前処置は緩下剤を前日服用し、当日朝に自宅で下剤のニフレックを2リットルの水に溶解して飲用し、午後から検査が行われる。令和2年2月までは当診療所においてニフレックを飲用していたが、3月から自宅での飲用に変更となった。前投薬として、麻酔薬を注射する。

大腸内視鏡検査件数は102例（男性57例、女性45例）で、平成29年度178例、平成30年度171例、令和元年度150例、令和2年度94例、令和3年度128例（男性69例、女性59例）で、この3年間はやや減少傾向にある（表6）。この検査数の減少は新型コロナウイルス感染防禦のため、1日当たりの検査数を減らし、検査毎に消毒の徹底を図ったことが一因と考えられる。

その内訳は、外来における検便潜血陽性および1年に1回の大腸内視鏡検査フォローを含む内視鏡検査39例（令和3年度42例）、一般健診の便潜血反応陽性から54例（令和3年度67例）、区健診の便潜血反応陽性から5例（令和3年度11例）、他所からの大腸内視鏡検査依頼4例（令和3年度8例）であった（表7）。いずれも令和3年度よりやや減少していた。

内視鏡所見としては、27例が無所見（令和3年度44例）で、有所見としては、昨年同様に**憩室が最も多く**34例（令和3年度45例）、次いで**腺腫**が24例（令和3年度30例）、痔22例（令和3年度14例）**良性ポリープ**16例（令和3年度19例）であった。例年、腺腫と憩室が多い。なお、潰瘍性大腸炎

3例（令和3年度2例）、大腸悪性腫瘍2例（令和3年度4例）がみられた（表8）。

表6 大腸内視鏡検査月別人数（人）

月	男性	女性	総数
4月	4	3	7
5月	2	2	4
6月	6	3	9
7月	4	2	6
8月	2	4	6
9月	5	4	9
10月	5	6	11
11月	4	6	10
12月	7	2	9
1月	8	1	9
2月	4	6	10
3月	6	6	12
計	57	45	102

表7 大腸内視鏡検査受診者の内訳（人）

外来より	39
一般健診で便潜血検査陽性	54
区健診で便潜血検査陽性	5
他所より紹介	4

表8 大腸内視鏡検査所見（人）

がん	2
腺腫	24
良性ポリープ	16
痔	22
憩室	34
大腸炎	2
潰瘍性大腸炎	3
クローン病	0
直腸炎	3
平滑筋腫	0
カルチノイド	0
びらん	3
所見なし	27

悪性腫瘍症例数の経年変化をみると、平成29年度4例、平成30年度5例、令和元年度6例、令和2年度7例、令和3年度4例に比べ令和4年度は2例とやや少なかった。

大腸内視鏡検査で発見された大腸悪性腫瘍2例の一覧を示す(表9)。男性2例で、依頼元は健診からの2次検査であった。S状結腸がん和直腸がん各1例ずつであった。いずれも進行がんで、根治手術がされた。(船津和夫 記)

表9 大腸内視鏡で発見された大腸がん症例

性別	年齢	診断名	部位	進行度	術式(紹介)	依頼元
男性	54	肛門管直上がん	直腸	進行	根治切除(術式不明)	区健診より
男性	57	管状腺がん	S状結腸	進行 (転移なし)	腹腔鏡下高位前方切除	健診より

C. 循環器検査

1. 心臓超音波検査

表10に心エコー被検者の男女別年齢別の構成を示す。男女では女性が多く(52%)、年齢では70~79歳が29%と最も多く、80~89歳(26%)、60~69歳(24%)と続く。

表10 心エコー検査被検者の男女別年齢別の割合 (名)

年齢(歳)	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	90~99	合計	構成比(%)
男性	0	2	15	30	21	21	0	89	48
女性	3	6	10	14	33	27	4	97	52
合計	3	8	25	44	54	48	4	186	100
構成比(%)	2	4	13	24	29	26	2	100	

令和4年度の心エコー実施者数は186例で昨年より1例減少した。所見数は383所見で昨年より61所見増加した。弁異常は72所見増加、左室壁肥厚は3所見減少、房室拡大は7所見減少、左室壁運動異常は同数であった(表11)。

表11 心臓超音波検査(186例、383所見)

I 弁異常 (359)	II 左室壁肥厚 (9)	V その他 (4)
僧帽弁逸脱(前尖) 10	心室中隔肥厚 3	心室中隔欠損 1
僧帽弁逸脱(後尖) 1	シグモイドセプトウム 1	左室仮性腱索 1
僧帽弁閉鎖不全 85	左室びまん性肥厚 3	心嚢液貯留 2
僧帽弁硬化 1	左室心尖部肥厚 2	VI 異常無し 13
僧帽弁後尖硬化 2	III 房室拡大 (7)	() は各項の総数
僧帽弁前尖石灰化 1	大動脈拡大 2	
大動脈弁閉鎖不全 72	左房拡大 4	
大動脈弁狭窄 7	右室拡大 1	
大動脈弁硬化 10	IV 左室壁運動異常 (4)	
大動脈石灰化 1	左室下壁運動低下 1	
三尖弁閉鎖不全 119	左室拡張機能低下 3	
肺動脈弁閉鎖不全 50		

今回示すのは左室拡張機能低下の症例である。図1は左房から左室に流入するパルスドプラーの拡張期血流を示し、E波(拡張早期左室流入血流)とA波(心房収縮期血流)の比、E/A比が0.79と1以下で、拡張機能障害と判定できる。図2の心室中隔の組織ドプラーの波形では、拡張早期のe'は4.1cm/sと小さく、E/e'は16.22と大きく、拡張機能障害と判定できる。左室機能は収縮機能の他に、拡張機能も検討すべきである。

図1：パルスドプラー

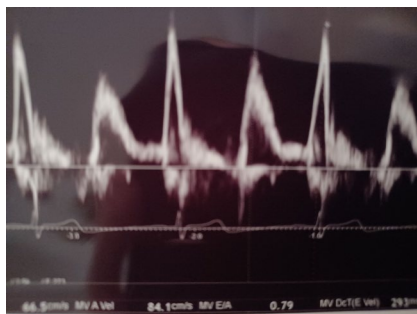
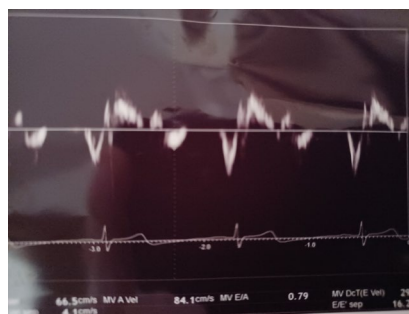


図2：組織ドプラー



2. ホルター心電図検査

令和4度は、77例で昨年より32例減少した(表12)。そのうち8例は、Wearableの1週間連続ホルター心電図で、そのデータは今回示していない。データを示した69例のうち6例(昨年より1例増加)では24時間血圧も同時に計測した。心室性期外収(PVC)Lown I度は昨年より19例減少、Lown II度は7例減少した。多源性は32例減少、2連発は12例減少、3連発は6例減少した。上室性期外収縮(720/日以下)は、14例減少し、上室性期外収縮(720/日以上)は、10例減少した。

令和4年度はホルター実施者のうち心室性期外収縮Lown II度以上の男女別、年齢別の割合を検討したので(表13)に示す。男女別では男性79%、女性64%と男性の頻度が多かった。年齢が上がるほど頻度が高くなるという傾向はみられなかった。

表13 ホルター実施者における「心室性期外収縮Lown II度以上の男女別年齢別の割合」

年齢	実施人数			該当者			(%)
	男	女	合計	男	女	合計	
20~29	0	1	1	0	1	1	100
30~39	2	4	6	1	4	5	83
40~49	5	7	12	4	2	6	50
50~59	9	6	15	7	4	11	73
60~69	7	7	14	6	4	10	71
70~79	8	4	12	6	3	9	75
80~89	2	6	8	2	4	6	75
90~99	0	1	1	0	1	1	100
合計	33	36	69	26	23	49	

男性 79(%) 女性 64(%) 合計 71(%)

<おすび>

心エコー検査を受けた人は60~89歳が多かった。心室性期外収縮Lown II度以上は男性の頻度が女性より多く、年齢が高いほど頻度が高くなるという傾向はみられなかった。胸痛、動悸、息切れ等の自覚症状やBNP高値、心電図や胸部レントゲンの異常所見があると更に精査することが必要になる。心エコー検査およびホルター心電図検査等を用いて、循環器診療における正確な診断を目指したい。

(近藤修二 記)

表12

Holter 心電図	77 例
(下の表は1週間連続Holter心電図を除いた69例のデータ)	
1週間連続Holter 心電図	8 例
(表内データには含まれない)	
24時間血圧測定(同時に実施)	6 例
(表内データに含まれる)	

心室性期外収縮0 (Lown 0)	1
720/日以下 (Lown I)	39
720/日以上 (Lown II)	27
多源性 (Lown III)	46
2連発 (Lown IVA)	24
3連発 (Lown IVB)	8
RonT (Lown V)	0
上室性期外収縮0	1
720/日以下	52
720/日以上	16
心房細動	0
一過性心房細動	1
上室性期外収縮連発	46
上室性頻拍(3連発以上)	38
ペースメーカーリズム	1
洞停止	2
I度房室ブロック	0
II度房室ブロック	1
(高度)洞性頻脈(150/分以上)	2
(高度)洞性徐脈(40/分以下)	1
2秒以上のpause	6
HR増加時ST低下	6
異常なし	(名)

D. 腹部超音波検査・CT検査など

腹部超音波検査は第1, 第3木曜日と第2, 第4金曜日の午前中に専門医により施行されている。この検査は、空腹状態で施行され、放射線被曝なしに簡便に受けられる画像診断として広く汎用されており、臨床診断上とても有用である。検査の対象者は、診療所の外来受診者と生活習慣病健診の2次検査として腹部超音波検査を指示された人である。病気としては、肝および腎のう胞、脂肪肝、肝血管腫、胆のうポリープ、胆石と肝内結石、腎結石、前立腺肥大などが多く、超音波検査のみで確定診断できる。肝腫瘍については、超音波検査時のカラードップラー法による血流測定や造影CT検査により肝血管腫などの良性の病気と肝臓がんとの鑑別を行っている。また、慢性肝炎、肝硬変という肝臓がんが生じやすい患者様のフォローアップについては1年に複数回施行する造影CT検査と併用される。超音波検査の精密検査としてCT検査が必要な病気としては、肝腫瘍、胆管拡張、腎腫瘍、腎盂拡張、胆のう壁肥厚、膵のう胞、膵管拡張、膀胱腫瘍、甲状腺腫、腹部リンパ節腫脹がある。これらは悪性腫瘍が存在する可能性があり、精査もしくは経過を追って繰り返し再検査が必要である。

腹部超音波検査の所見の判定には、検査を施行する術者の主観が入ることがあるので、病変の正確な診断には術者の経験と検査手技が重要である。

当診療所では、超音波検査の専門医が施行しており、精密検査として造影CT検査も受けられるので、受診者は安心して検査を受けることができる。また、外来に来院された症状のある患者にとって、食事をしていても即時の検査対応が可能であり、早期診断の一助となる。

性別各月ごとの施行件数を表13に示す。腹部超音波検査の検査総数は男性70例、女性71例(計141例)であった(表13 a)。経年推移をみると、平成28年度206例、平成29年度264例、平成30年度246例、令和元年度222例、令和2年度175例、令和3年度172例(男性66例、女性106例)とこの3年間は少なかった。これは新型コロナウイルス感染症の影響のためと考えられた。

頸動脈超音波検査は近年注目されているメタボリックシンドロームに伴う心臓や脳の血管の硬さを反映する頸動脈の硬化度をみるもので、全身の動脈硬化進行度の指標になる。また、プラークと呼ばれる破裂すると脳卒中を引き起こす頸動脈の限局的な動脈硬化巣の発見にも有用である。

表13 超音波検査月別人数

(人)

月	総数	a 腹部超音波検査			b 頸動脈超音波検査			c 甲状腺超音波検査		
		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
4月	11	7	1	6	2	0	2	2	0	2
5月	12	9	3	6	3	1	2	0	0	0
6月	20	13	8	5	4	2	2	3	1	2
7月	25	15	13	2	10	3	7	0	0	0
8月	7	6	2	4	0	0	0	1	0	1
9月	25	20	10	10	4	0	4	1	0	1
10月	20	15	5	10	4	3	1	1	0	1
11月	17	10	7	3	5	3	2	2	1	1
12月	14	7	3	4	5	2	3	2	0	2
1月	14	12	6	6	2	1	1	0	0	0
2月	17	12	4	8	4	1	3	1	0	1
3月	18	15	8	7	2	2	0	1	0	1
	200	141	70	71	45	18	27	14	2	12

頸動脈超音波検査は45例（男性18例、女性27例）であった（表13b）。頸動脈超音波検査数の推移は平成28年度112例、平成29年度99例、平成30年度94例、令和元年度110例と例年100例前後であったが、令和2年度68例、令和3年度73例（男性39例、女性34例）とこの3年間は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、検査数が減少した。

甲状腺超音波検査は14例（男性2例、女性12例）施行された（表13c）。甲状腺超音波検査数の推移は平成28年度17例、平成29年度29例、平成30年度16例、令和元年度20例、令和2年度26例、令和3年度32例（男性7例、女性25例）と年度によりばらつきがみられた。

甲状腺エコーは女性の受診者が男性に比べ圧倒的に多く、これは男性より女性に甲状腺の病気が多いためである。

CT検査は、肺がん、肝臓がん、膵がん、胆嚢がん、胆管がん、腎がん、婦人科のがん（卵巣がん、子宮がん）、甲状腺がん、縦隔腫瘍などの悪性腫瘍や脳疾患（硬膜下血腫、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍）の診断のために有用である。CT検査機器は平成27年度に精度の高い新しい機器に変更され、診断能の向上が期待される。

また、令和元年度1月から健診オプション検査として、**腹部CTを用いた内臓脂肪測定**が開始された。この内臓脂肪測定は腹囲測定に比べより正確に内臓脂肪量が判定でき、メタボリック症候群の診断上重要な検査である。

全CT検査数は420例であった（表14）。単純CT検査は外来・健診合わせて389例で、平成30年度537例、令和元年度688例、令和2年度432例、令和3年度467例に比べ比較的少なかった。

令和元年から開始された腹部CTを用いた内臓脂肪測定が単純CT検査数の増加に寄与している。この3年間は新型コロナウイルス感染症の流行のため、健診・外来受診者数が減少し、CT検査数の減少に影響していた。単純CT検査は胸部CT検査と内臓脂肪測定のための腹部CT検査が多くを占めた。

一方、造影CT検査はほとんどが腹部で外来受診者に精密検査として施行され、今年度は31例で、平成29年度55例、令和元年度62例、令和2年度40

例、令和3年度32例に比べ少なかった。これは新型コロナウイルス感染症による外来受診者数の減少が関与しているためと考えられた。

胸部CT検査はほとんど単純撮影で218例であった。平成27年度332例、平成28年度278例、平成29年度288例と年間300例前後が続いたが、平成30年度は419例、令和元年度401例と増加した。一方、令和2年度272例、令和3年度273例、今年度218例とこの3年間は減少していた。これも新型コロナウイルス感染症に伴う受診者の減少のためと考えられた。

腹部CT検査は単純CT検査28例、造影CT検査30例（計58例）であった。総件数については平成27年度101例、平成28年度90例、平成29年度98例、平成30年度106例、令和元年度96例と100例前後が続いていた。しかし、令和2年度79例、令和3年度67例、今年度58例とこの3年間は新型コロナウイルス感染症の影響により減少した。

令和元年1月から開始された腹部CTを用いた内臓脂肪測定は131例で単純CT検査数の増加に寄与していた。件数については令和2年度113例、令和3年度147例でほぼ同数が続いている。

頭頸部CT検査は全て単純撮影で前年度と同数の12例あった（表14）。

表14 CT検査人数 (人)

外来	単純CT検査	頭頸部	12
		胸部	103
		腹部	28
		内臓脂肪	0
		その他	1
	計	144	
造影CT検査	胸部	1	
	腹部	30	
	計	31	
健診	単純CT検査	胸部	114
		内臓脂肪	131
		計	245
	総計	420	

(船津和夫、植田充、茂木章子 記)

E. 栄養相談

栄養相談は、主治医からの依頼を受け、病気の予防・改善を目的に患者さんの生活背景や食生活の内容を踏まえて、実行可能な方法を患者さんと一緒に考え、食事計画を提案している。また、食事療法を継続することの重要性を理解してもらうために定期的に栄養食事相談に来ていただき、長期に良好な自己管理ができる能力を身につけていただけるようお手伝いをしている。本人とご家族に初回は30～60分、継続は20～40分間行っている。令和4年度の対象者は30歳～89歳で平均年齢は男性56.2歳、女性64.9歳であった。

「流行りの糖質制限は良いのか?」「痩せられない」「血糖を上げずに太りたい」「筋肉をつけたい」「コレステロール値が下がらない」「薬を減らしたい」「内臓脂肪を減らしたい」など、様々な問題や悩みに対し、食事・運動・生活面からアプローチしている。

2型糖尿病、肥満症、高血圧症、脂質異常症などの疾患の多くは、朝食の欠食、夕食時間が遅い、野

菜料理が少ないなど食生活に関係が深いことがいわれている。これらはちょっとした工夫や食べ方で体の負担を減らし、健康を維持することが可能である。日常の生活環境や食習慣をうかがい、性別、年齢、体格、活動量、ライフスタイルにあわせて、オーダーメイドの食事プランを立てるようにしている。普段、食べている食事の栄養バランスが血液検査データや随時尿による推定食塩排泄量などをふまえて、診断し話をさせていただいている。また食事記録による判定も行っている。

忙しくて来られない人や、「面談はちょっと」と思われる人には、アンケートと食事記録による「書面栄養相談」を受け付けている。

ここ数年、糖尿病教室は新型コロナウイルスの感染拡大により中止している。例年行っていた糖尿病教室では最新情報も交え、管理栄養士からは食事療法の基本を含めテーマ別に4シリーズの内容で行っている。患者様同士の交流もあり、患者様の体験談を聞くことができる場となっている。

(管理栄養士 渡邊潤子 記)

個別栄養相談

日 時：第2、3、4の金曜日の午前中、第1木曜日の午前中

相談員：管理栄養士（日本糖尿病療養指導士）

対象疾患：糖尿病、肥満症、高血圧症、脂質異常症、心臓病、慢性腎臓病、肝臓病、消化器疾患、貧血、低栄養など

糖尿病教室（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）

日 時：原則第3金曜日14:15～15:00

担当：管理栄養士（日本糖尿病療養指導士）

内 容：基礎編（糖尿病の食べ方、食事内容、間食について）
 応用編1（体重管理、運動療法について）
 応用編2（外食・食物繊維・アルコールの取り方）
 応用編3（糖尿病の合併症予防・食塩の取り方）

表15 個別栄養相談件数

項目	男性	女性	糖尿病	脂質異常症	高血圧	肝臓病	心臓病	慢性腎臓病	肥満症	その他	計
人数	41	39	36	28	9	1	1	2	2	1	80

*複数の疾患を合併している場合は主病でカウントをしている

F. 病診連携

当三越診療所のある新宿区には、慶応義塾大学病院を始めとして、東京女子医科大学病院、東京医科大学病院の大学病院があり、さらに近隣の大きな病院としては国立国際医療研究センター病院、大久保病院、東京山手メディカルセンター（旧社会保険中央総合病院）、東京新宿メディカルセンター（旧厚生年金病院）、東海大学医学部付属東京病院がある。いずれの病院も区医師会と病診連携を行っており、その多くが区健診の精密検査の指定病院となっている。

急性疾患、慢性疾患のほとんどが当診療所外来で治療を受けているが、入院が必要な手術、医学的に入院加療が必要であると判断される急性腹症・肺炎・心筋梗塞・脳血管障害などの急性疾患については、病診連携ルートを介して近隣の病院あるいは遠方から来院される方には受診者の希望される病院を紹介している。

今年度の紹介患者数は188件で、平成30年度318件、令和元年度283件よりかなり少なく、令和2年度175件、令和3年度168件とほぼ同数であった（表17a）。これは新型コロナウイルス感染症の流行に伴う外来受診者数の減少によるものと思われた。

頻度の高い紹介病院として、例年、慶応義塾大学病院、東京医科大学病院があげられ、それ以外には東京山手メディカルセンター、東京女子医科大学病院、東海大学医学部付属東京病院などであった。甲状腺疾患については、伊藤病院への紹介が多かった。また、皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、婦人科などについて精査が必要な場合には近隣の専門病院や医院を紹介している。紹介先としては、過半数が大学病院もしくは大学病院と同規模の大病院である（表17a）。なお、今年度も新型コロナウイルス感染症流行に伴い一部の病院では新型コロナウイルス感染症以外の疾患の入院が制限されたため、紹介数の変動に繋がっている。

CT検査は、造影検査を含め当診療所において施行しており、外部の検査センターへの依頼はMRI検査が多く、他に心臓の冠動脈の狭窄をみるための心MRI検査と造影CT検査、脳波検査がある（表17b）。本年度の外部への検査依頼件数は88件で、平成30年度99件、令和元年度87件とほぼ同数で、令和2年度56件、令和3年度76件に比べ増加していた。検査数については、一時期新型コロナウイルス感染症の流行に伴う外来受診者数の減少の影響がみられた。

検査結果については、いずれの検査も数日後に、検査データとともに専門医によるコメント付きの結果が当院に郵送され、外来で受診者に検査所見を説明している。

依頼した検査センターとしては、メディカルスキャンニング、大久保病院、水町MRクリニックにMRI検査、心臓画像クリニック飯田橋に心臓の冠動脈をみるためのMRI検査と造影CT検査を依頼した。

以上のごとく、当診療所は以前から大学病院をはじめとして、専門病院と病診連携を行っており、入院精査あるいは治療が必要な受診者に対しては、適切な病院紹介と情報提供を行っている。

表17 紹介先病院・検査センター一覧

α 診療・手術目的	件数
慶応義塾大学病院	25
東京医科大学病院	24
東京女子医科大学病院	8
東海大学医学部付属東京病院	6
東京山手メディカルセンター	5
東京都済生会中央病院	0
その他大学付属病院	12
その他病院・クリニック	108
計	188
β 検査目的	件数
メディカルスキャンニング	63
大久保病院	7
水町MRクリニック	6
心臓画像クリニック飯田橋	12
計	88

G. 嘱託産業医活動

各常勤医は、働く人の健康を確保するための産業保健に関する専門・技術サービスを提供する認定産業医の資格を取得し、各関連企業と契約をして嘱託産業医活動を行ってきた。

21世紀に入り構造不況が続き、内外にわたる環境や構造の変革が進み、各事業所においても職場組織・職場環境が大きく変化し、就業形態の多様化が進んでいる。令和元年度末にCOVID-19 感染流行の波が繰り返し、非常事態宣言下での企業活動、テレワークを推進する状況となり、さらに令和3年度末にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、ますます経済の停滞と昔の世界恐慌を超える不況が懸念されている。令和5年5月になってCOVID-19感染症は5類感染症に変更になったのでテレワークも少なくなるが、疾病を持っている職員やハイリスク該当者などが、そのままテレワークを続けるかどうかという基準も明らかなものはなく、現場では混乱している。企業内では、パワハラ・派遣労働社員問題や、勤務体制のシフト化による労働時間の変化、そして慣れないテレワークの開始で自宅での作業環境の変化や上司同僚とのコミュニケーション不足などがあり、COVID-19 感染や戦争による漠然とした不安感に包まれるなかで、メンタルヘルス不調者が増えている印象であった。

平成27年12月より50人以上の事業所は職員にストレスチェックを行うことが義務化され、各事業所で実施されている。平成31年4月1日から「産業医・産業保健機能」と「長時間労働者に対する面接指導等」が強化されてきている。また高度プロフェッショナル制度対象労働者や研究開発業務従事者など、職種による面接指導を事業所にあったケースバイケースで対応することが求められている。

令和4年度は、当健診センターを利用している11の企業・事業所（昨年と同数）に対して、各常勤医（認定産業医）がそれぞれ担当になり、刻々と変化するCOVID-19に関する医学的情報の提供や新型コロナウイルス感染後遺症の対応、健診で得られた結果をもとに生活習慣病管理やメンタルヘルスを含めた健康相談、労働者の健康管理を中心とした職場巡視、安全衛生会議参加による作業環境の管理や労働衛生教育、労働基準局への届け出、そして高ストレス者面接などを、各企業の実態にあわせ工夫して実施している。

（山下毅記）

H. 診療資料

1. 診療患者延べ人数

12,239名（令和4年4月～令和5年3月）

延べ人数内訳	・外 来	11,005名
	・予防接種	1,185名
	・精密検査	49名
	計	12,239名

2. X線撮影件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
一般撮影	120	84	114	73	89	107	114	141	109	78	91	100	1,220	
胸部	31	22	36	27	32	39	48	36	28	34	36	43	412	
入社	29	14	22	11	12	14	12	22	14	14	17	19	200	
外科	3	3	1	4	0	1	2	6	5	2	1	2	30	
腹単	18	3	10	7	12	10	10	28	11	8	14	16	147	
外来エコー	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	1	0	6	
造影撮影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
CT	頭頸	1	0	2	1	1	0	6	0	1	0	0	12	
	胸部	14	13	10	8	10	9	6	12	13	6	0	103	
	腹部	5	2	1	1	1	3	4	3	1	1	4	28	
	FAT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	単純	20	15	14	10	12	12	16	15	15	7	4	4	144
	E胸部	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	E腹部	1	1	7	1	1	2	5	6	2	2	0	2	30
	造影	1	1	8	1	1	2	5	6	2	2	0	2	31
乳房	6	16	14	5	14	15	9	16	20	5	9	8	137	
頸動脈エコー	11	9	6	6	5	9	11	10	10	5	8	4	94	
外来骨密度	1	1	3	2	0	3	1	2	3	0	1	2	19	
消化器	2	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	8	
食道	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	
胃部	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	
診療合計	122	84	114	73	89	107	114	147	109	78	91	100	1,228	
胸部	825	817	888	788	955	869	977	951	552	686	670	1,024	10,002	
腹部超音波	192	155	210	196	183	702	495	467	259	229	221	294	3,603	
頸部超音波	60	55	65	49	43	18	72	68	30	73	49	103	685	
胃部間接	10	8	35	19	17	20	35	74	39	20	24	39	340	
胃部直接	17	20	60	106	151	356	389	326	162	29	38	51	1,705	
C T (C)	9	8	6	14	4	4	13	16	4	13	11	12	114	
C T (F)	7	14	16	11	15	3	13	7	6	16	6	17	131	
骨密度	52	52	59	49	61	15	76	70	42	47	49	73	645	
マンモグラフィ	100	107	143	127	183	140	257	305	161	110	91	147	1,871	
乳腺エコー	12	1	3	5	6	1	8	11	9	2	2	6	66	
定健	68	127	145	112	15	106	105	78	0	48	52	224	1,080	
健診合計	1,352	1,364	1,630	1,476	1,633	2,234	2,440	2,373	1,264	1,273	1,213	1,990	20,242	
合計	1,474	1,448	1,744	1,549	1,722	2,341	2,554	2,520	1,373	1,351	1,304	2,090	21,470	

3. 臨床検査件数（健診）

検査名	年/月	R4年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5年	2月	3月	合計
		4月									1月			
生化学的検査	GOT	902	895	966	902	915	933	1,007	897	490	688	692	1,205	10,492
	GPT	902	895	966	902	915	933	1,007	897	490	688	692	1,205	10,492
	γ-GTP	902	895	966	902	915	933	1,007	897	490	688	692	1,205	10,492
	BUN	69	85	193	191	145	743	374	388	197	86	91	287	2,849
	クレアチニン	869	849	932	859	897	897	945	841	465	663	666	1,179	10,062
	尿酸	863	842	928	857	895	896	983	861	466	661	663	1,171	10,086
	中性脂肪	902	895	966	902	915	933	1,007	897	490	688	692	1,205	10,492
	総コレステロール	902	895	966	902	915	933	1,007	897	490	688	692	1,205	10,492
	HDL-コレステロール	902	895	966	902	915	933	1,007	897	490	688	692	1,205	10,492
	血糖	902	895	966	902	915	933	1,007	897	490	688	692	1,205	10,492
	HbA1c	864	847	933	845	896	888	926	822	464	626	625	1,038	9,774
	インスリン	69	55	107	73	74	42	112	150	108	76	70	121	1,057
	その他	1,470	1,461	2,370	2,639	2,643	7,279	4,603	4,434	2,369	1,283	1,311	3,286	35,148
	生化学合計	10,518	10,404	12,225	11,778	11,955	17,276	14,992	13,775	7,499	8,211	8,270	15,517	142,420
血液学的検査	CBC	902	895	967	901	915	938	1,009	899	490	687	687	1,210	10,500
	血液像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液合計	902	895	967	901	915	938	1,009	899	490	687	687	1,210	10,500
血清学的検査	高感度CRP	65	73	152	178	199	708	535	492	253	106	115	124	3,000
	CRP	24	42	66	47	38	23	69	67	26	13	26	32	473
	RF	18	21	34	21	22	12	30	22	18	14	20	31	263
	HBs抗原	63	66	87	79	61	667	62	62	45	20	29	41	1,282
	HCV抗体	54	43	51	49	42	24	25	27	32	20	26	36	429
	腫瘍関連	575	411	537	416	446	419	630	506	314	566	499	848	6,167
	血液型	20	38	50	36	29	16	38	40	16	11	21	30	345
	血清合計	819	694	977	826	837	1,869	1,389	1,216	704	750	736	1,142	11,959
一般検査	検尿	1,544	1,395	1,477	1,300	1,490	1,516	1,297	1,105	551	1,068	1,072	1,712	15,527
	沈渣	51	52	101	97	89	162	180	201	96	56	55	65	1,205
	便中Hb	812	738	761	677	813	776	702	587	298	552	560	899	8,175
	一般合計	2,407	2,185	2,339	2,074	2,392	2,454	2,179	1,893	945	1,676	1,687	2,676	24,907
生理学的検査	心電図	904	887	996	946	953	952	1,083	995	545	730	716	1,259	10,966
	肺活量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	眼底	104	129	247	298	309	150	724	721	374	206	201	262	3,725
	聴力	904	856	936	853	879	879	910	770	429	635	646	1,157	9,854
	生理合計	1,912	1,872	2,179	2,097	2,141	1,981	2,717	2,486	1,348	1,571	1,563	2,678	24,545
外注	感染症関連	81	88	107	86	76	655	64	49	52	33	35	50	1,376
	スミア(HPV)	115	82	142	148	172	135	273	314	172	84	89	130	1,856
	虫卵	4	7	7	5	4	3	9	7	5	2	6	10	69
	喀痰	9	1	25	10	15	8	19	16	9	7	17	27	163
	その他	593	497	625	593	550	203	654	454	341	479	434	702	6,125
	外注合計	802	675	906	842	817	1,004	1,019	840	579	605	581	919	9,589
総合計	17,360	16,725	19,593	18,518	19,057	25,522	23,305	21,109	11,565	13,500	13,524	24,142	223,920	

4. 臨床検査件数（外来）

検査名	年/月	R4年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5年	2月	3月	合計
		4月	1月											
生化学的検査	GOT	262	262	271	200	191	254	225	214	214	225	231	292	2,841
	GPT	262	262	271	200	191	254	225	214	214	225	231	292	2,841
	γ-GTP	224	224	225	165	159	225	172	133	133	169	163	212	2,204
	BUN	189	189	188	135	143	193	141	96	96	147	121	149	1,787
	クレアチニン	260	260	263	194	191	245	212	204	204	226	225	277	2,761
	尿酸	261	261	263	193	191	247	213	203	203	224	224	276	2,759
	中性脂肪	275	275	269	215	195	249	227	227	227	228	238	290	2,915
	総コレステロール	275	275	269	215	195	249	227	227	227	228	238	290	2,915
	HDL-コレステロール	275	275	269	215	195	249	227	227	227	228	238	290	2,915
	血糖	259	259	242	191	175	226	202	200	200	215	219	275	2,663
	HbA1c	233	233	212	177	161	216	194	197	197	204	207	252	2,483
	インスリン	3	3	2	2	2	0	4	2	2	1	0	4	25
	Na,K,Cl	195	195	211	143	143	178	155	153	153	150	170	217	2,063
	その他	1,286	1,286	1,317	960	925	1,259	961	769	769	819	915	1,190	12,456
生化学合計	4,259	4,259	4,272	3,205	3,057	4,044	3,385	3,066	3,066	3,287	3,420	4,306	43,628	
血液学的検査	CBC	196	196	199	159	154	190	167	169	169	179	181	241	2,200
	網赤血球像-ST	2	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	7
	血液合計	27	27	17	23	11	9	18	15	15	9	11	12	194
血清学的検査	高感度CRP	17	17	11	7	5	16	8	8	8	13	9	14	133
	CRP	20	20	19	10	11	21	12	13	13	20	16	21	196
	RF	0	0	0	1	2	1	0	0	0	1	1	0	6
	HBs抗原	8	8	10	4	4	8	9	9	9	8	7	13	97
	HCV抗体	8	8	10	6	4	8	10	9	9	10	8	13	103
	梅毒検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腫瘍マーカー	36	36	26	6	12	6	17	26	26	13	18	23	245
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
血清合計	89	89	76	34	38	60	56	65	65	65	59	84	780	
一般検査	検尿	82	76	71	64	59	91	80	67	90	82	72	90	924
	沈渣	61	62	55	50	46	65	58	46	69	60	45	58	675
	尿アルブミン	8	7	21	3	6	3	2	4	3	8	2	5	72
	妊娠反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	便中Hb	2	9	8	12	4	6	4	0	2	2	0	10	59
一般合計	10	17	18	18	8	14	14	9	11	12	8	23	162	
生理学的検査	心電図	77	66	76	55	53	67	79	90	91	80	82	93	909
	負荷心電図	6	3	1	2	10	2	9	7	7	6	4	9	66
	ABI	2	9	9	6	4	7	5	4	3	5	7	16	77
	肺活量	1	2	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	7
	眼底	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4
	聴力	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	聴力	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	5
生理合計	86	82	88	63	68	79	94	101	102	91	94	120	1,068	
外注	感染症関連	0	3	10	3	10	2	5	9	3	2	6	12	65
	病理関連	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4
	喀痰	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	細菌検査	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	その他	101	123	84	57	92	74	99	68	92	77	89	145	1,101
外注合計	102	127	101	60	102	76	105	78	95	79	95	158	1,178	
総合計	4,573	4,601	4,572	3,403	3,284	4,282	3,672	3,334	3,354	3,545	3,687	4,703	47,010	